

学友報知

デジタル三月号

発行所
群馬県太田市八幡町16-7
県立太田女子高等学校
新聞部
電話(太田)(22)6651番

桐生の森林に新しい価値を

桐生市にある合同会社バリユー・フォレストの代表社員である武井沙織氏にお話をうかがった。



《武井沙織氏 略歴》

- ・昭和53年生まれ。群馬県桐生市立西小学校出身。群馬県立前橋女子高等学校卒業、岩手大農学部農林水産学科に進学。
- ・大学卒業後は青年海外協力隊に応募し、中米のニカラグアで2年間暮らす。
- ・帰国後、一般社団法人海外林業コンサルタンツ協会に入社。パキスタン、ケニア、ルワンダ、中国、フィリピン、イラン、マラウイ、モンゴル等で専門家として仕事に勤しむ。
- ・2021年に独立し、合同会社バリユー・フォレストを設立。

★大学卒業まで
幼少時は山の近くで育ち、近所の小川で遊ぶこともありました。大学は農学部を選びました。実学は社会に運動して学問が変わってゆく部分があり、学科名も変わってゆきます。かつて日本で盛んだった林業が衰退するのに合わせ、他大学も林学科という名前をどんどん変えていった狭間の時代でした。大学を卒業する頃は就職の大氷河期時代で、就職先がほとんどないという状態でした。その頃大きな話題だったのは、アメリカで起きた

9・11の同時多発テロと、バリーマンの遺跡がタリバンによって破壊されたこと。世界ではこんなことが起きていたのかと思えました。大学卒業後は桐生の実家に戻り、海外に興味があったことから、青年海外協力隊に応募しました。

★青年海外協力隊の経緯
ニカラグアでの活動、ニカラグアは中米にある国です。ニカラグアは日本から遠いと思うのですが、狂牛病が騒ぎになった時期は、ニカラグアで

は狂牛病が流行していなかつたので、牛タンを日本に輸出していたこともある国です。そこで2年間生活し、日本の良さも悪さも分かったように思いました。

青年海外協力隊として任地に配属された日本人は、私で4代目。1代目から3代目の人たちが、日本人はこの豆の栽培のために、こんな感じだよと教えておいてくれるので、現地に入ってもなり受け入れられたように思っています。焼畑農業が盛んな土地です。標高400m以上は森林を伐採してはいけないと

いられるのかと思うくらい、同僚は3人います。現地の状況は、私に比べて、森林の伐採も減らさなければならぬ。薪の節約も必要です。肉や炭水化物は食べるけれども、野菜は少ないので、大豆や野菜で

★一般社団法人海外林業コンサルタンツ協会での経緯
ニカラグアから帰国し、海外での仕事をしたいと考えていたところ、大学の先輩の声を掛けにより入社の声掛けがありました。JICAの自然環境保全の活動として、開発途上国内などで植林だけでなく環境保全に関する様々な支援事業などを行っていました。林野庁のプロジェクトファインディングという、日本の技術

海外で活用するため

のプロジェクトを見つかるための調査も行いました。入社3年目のパキスタン、ケニア、ルワンダでは、海外協力隊のようなものが実施している環境教育や、JICA（注：独立行政法人国際協力機構。日本の政府開発援助を一元的に開発途上国に実施する機関）のプロジェクトの見学もさせてもらい、積極的に支援について勉強しました。

は狂牛病が流行していなかつたので、牛タンを日本に輸出していたこともある国です。そこで2年間生活し、日本の良さも悪さも分かったように思いました。



フリホーレス畑（ニカラグア）



NGO との市内緑化（ニカラグア）

年間1600mmであるのに対して、モンゴルは4000mmで、砂漠地帯は2000mm以下。北の方に行くと森林があるけれど、南部にむけて砂漠になっていきます。山羊や羊を放牧しています。夏は毛刈りをして、冬は現地に行けないくらい寒いですが、ゲル（注：モンゴルの遊牧民が暮らす移動式住居の中で調査をしました。貧しい国というわけではなく、遊牧民は持つていきます。過放牧による草地の荒廃が問題で、モンゴルの少ない降水量でも生える植物を植えるを試みしました。カナガラという、2mくらい

の株立ちするようにな灌木を植林したら、家畜の飼料にしたらどうかというプロジェクトです。粒状のペレットに加工することも検討していました。マラウイは私の渡航した国の中で最貧国でした。乾季は長い



ゲル内での調査（モンゴル）

国際協力コンサルタンツという仕事は、現地にゆく前に情報収集をしっかり行うことが重要です。国家の面積、人口、1人あたりのGDP、主要産業、気候や降水量など、そういう指標を見ながら現地に入ります。

モンゴルの国土は日本の4倍くらいなのに人口は340万しかいません。そして首都のウランバートルに人口が集中しています。国土は放牧地が8割近くあり、降水量は少ないです（注：日本の平均降水量が

ですが、雨季には結構降る（注：年間降水量は800mmから高い木もあります。でも、大量に伐採してしまう人がいます。首都なのに炭で料理していました。JICAのプロジェクトは国と国との契約で実施するから大規模な取り組みができます。まず広域での森林の調査をし、実際にどういう活動が必要かを個別の専門家が現場で技術協力のプロジェクトをコンサルタンツが継続してつくりだす。

